



発行 小野友五郎を伝えてゆく会
 事務局 〒309-1626
 茨城県笠間市下市毛222の5
 TEL 0296-72-5104 FAX0296-72-5115
 H P https://tomogorou.com
 Eメール tomo56@eco.ocn.ne.jp

笠間の友五郎から
日本の友五郎へ

- ◆ 咸臨丸サミット詳細
- ◆ 小野友五郎伝 ◆ 大山守大場家郷土屋敷の紹介
- ◆ 友五郎の足跡を訪ねて 深川・日本橋界隈
- ◆ 小野友五郎新聞コンクール ◆ 会員の声 ◆ 編集後記

歴史、生き様、思い、そして未来へ…

子孫らが語り合った咸臨丸サミット



満席の聴衆を魅了

咸臨丸で渡米を果たし、幕末から明治にかけて多くの功績と足跡を残した小野友五郎や勝海舟など咸臨丸に関わる子孫たちを招いて、10月27日、笠間稲荷神社(笠間市笠間)で「咸臨丸サミット in 笠間」を開催しました。多くの市民、歴史愛好家ら250人が訪れ、会場は満席となり、子孫らの話に熱心に耳を傾けていました。

第3回小野友五郎新聞コンクール 最優秀、優秀賞児童ら12人を表彰



表彰を受けた児童らと杉田会長

サミットでは歴史小説家の鳴海風氏が基調講演、この後、6人の子孫らが登壇し、先祖たちへの思い、咸臨丸の意義などについて語り合いました。これに先立ち、小野友五郎新聞コンクールの表彰を行いました。

咸臨丸に関係する福島県矢祭町、北海道木古内町の町長、山口伸樹笠間市長も訪れました。主催は小野友五郎を伝えてゆく会(杉田捷機会長)、笠間市、咸臨丸子孫の会など共催。(次ページ以降に詳細)

茨城新聞 咸臨丸サミット記事から

2024年11月6日付

笠間支局 佐川友一記者

米国渡航意義考える 笠間で咸臨丸サミット

164年前の江戸時代末に日本の船初めて太平洋を横断し、米艦「ミシシッピ」が笠間市笠間町に上陸した。この日、笠間市で「咸臨丸サミット」が開催された。歴史小説家、鳴海風さん、基調講演と、咸臨丸の乗組員の子孫ら6人が一堂に会してのパネル

乗組員子孫らパネル討論

サミットは、咸臨丸の船士の偉人として知られる小野友五郎の孫ら6人が一堂に会して行われた。小野友五郎の孫ら6人が一堂に会して行われた。小野友五郎の孫ら6人が一堂に会して行われた。

成果明らか

咸臨丸は、日米修好通商条約の締結に大きく貢献した。咸臨丸の渡航は、日米関係の改善に大きく貢献した。咸臨丸の渡航は、日米関係の改善に大きく貢献した。

近代化の必要性

咸臨丸の渡航は、近代化の必要性を示した。咸臨丸の渡航は、近代化の必要性を示した。咸臨丸の渡航は、近代化の必要性を示した。

グレートレース

咸臨丸の渡航は、グレートレースの一環として行われた。咸臨丸の渡航は、グレートレースの一環として行われた。咸臨丸の渡航は、グレートレースの一環として行われた。

164年前の江戸時代末に日本の軍艦として初めて太平洋を横断し、米艦に渡った徳川幕府の咸臨丸（かんりんまる）に思いをはせる「咸臨丸サミット」が10月27日、笠間市笠間の笠間稲荷神社で開かれた。歴史小説家、鳴海風さんの基調講演と、咸臨丸の乗組員の子孫ら6人が一堂に会してのパネル



鳴海 風さん



咸臨丸は、日米修好通商条約の批准のため、渡米する幕府の使節団を乗せた米艦「ポーハタン号」を護衛する名目で、1860年1月にサンフランシスコに向け品川を出航し、同5月に帰国した。往

■成果明らかに

咸臨丸は、日米修好通商条約の批准のため、渡米する幕府の使節団を乗せた米艦「ポーハタン号」を護衛する名目で、1860年1月にサンフランシスコに向け品川を出航し、同5月に帰国した。往



藤本 増夫さん

討論が行われ、同艦の米国渡航の意義を考え、人々に尽くし、平和を築く大切さなど、未来へ向けてのメッセージを發した。

結果、勝海舟など「いろいろな材が出てきた」と述べた。55年10



高山 みな子さん

鳴海さんは、ペリー艦隊来航の13年前にあったアヘン戦争の情報を把握しながら、十分な防備対応を取らなかった幕府の怠慢を指摘する一方、来航後の対応は素早

路は37日間かかり、暴風雨と荒波にもまれての航海だった。鳴海さんは「幕末日本の再検証・咸臨丸アメリカ渡航の意義」と題し講演。咸臨丸の渡米がペリー来航（1853年）から明治維新（68年）までの「真ん中にある」と指摘。「意義」を考えるには、渡航に至る経緯と目的、成果をはっきりさせる必要があると指摘した。

月にオランダ人が教師となる海軍の学校、長崎海軍伝習所が創設され、咸臨丸での米国渡航の乗組員はここで学んだ人らから選ばれた。

■近代化の必要性

「子孫が語る幕末日本・咸臨丸未来の船出」をテーマにしたパネ



小林 賢吾さん

ル討論では、咸臨丸子孫の会会長藤本増夫さん(水主(かこ)・大熊実次郎の兄の玄孫)、高山みな子さん(勝海舟の玄孫)、小林賢吾さん(浜口興右衛門のひ孫)、宗像信子さん(木村喜毅の玄孫)、小野孝太郎さん(小野友五郎の玄孫)、榎本隆一郎さん(榎本武揚の玄孫)が登壇。

藤本さんは、水主たちがよく読み書きができたことや、咸臨丸の

乗組員に茨城県からも現在の土浦市、小美玉市の出身者がいたことを紹介。高山さんは、海舟が、渡航中、船酔いで艦長の職責を果たせなかったことに「悔しい思いをしただろう」と無念を代弁した。

小林さんは、浦賀奉行所の同心から長崎海軍伝習所の1期生になり、米渡航の乗員にも選ばれた浜口を曾祖父に持つ。浜口の伝習所時代について「学んだのは通訳を介し1年半。何が勉強できましようか」と、学習は十分ではなかったとの見方を示した。宗像さんは高祖父木村が軍艦奉行だったが「渡航前、財産を全部売り払い、3千両を用意した。戦に行く気持



宗像 信子さん

ちだったろう」と述べた。

小野さんは、友五郎の渡航直前

の心境を「不安、信頼、覚悟の三つだったと思う」と推測。榎本さんは、武揚が咸臨丸の米渡航組には選ばれず、後にオランダに留学する際、品川から長崎まで咸臨丸に乗ったという。当時の高祖父の心境を「(渡米できず)悔しかったはずで、何としても外国にと思いい、オランダ留学を果たせた」と述べた。



小野 孝太郎さん

米国では、港湾にひしめく蒸気船、大きなホテル、工場など近代文明の威容を目の当たりにした。鳴海さんは「国を守るには軍事力が必要で、近代化を進める必要があると、(乗組員の)誰もが痛感したのではないか」と述べた。

■グレート・ピース

先祖から受け継いでいると思う

ミッションについて、小野さんは「人々のために尽くすこと」、小林さんは「できる範囲でやれること



榎本 隆一郎さん

をやる。その積み重ねが大きな力、国力にもなるということ」と話した。

最後に、鳴海さんは、咸臨丸の偉業を踏まえた「未来への船出」の針路を示した。江戸時代に260年間、日本が外国と戦争しない「グレート・ピース」の時代があり、第2次大戦後も79年間、戦争をしないできていることを挙げ、「再びのグレート・ピースを築いていくことではないか」と締めくくった。

(佐川 友一)

咸臨丸サミットin 笠間

咸臨丸サミットin 笠間

咸臨丸サミットin 笠間



塙東男宮司
(笠間稲荷神社)

稲荷神社には友五郎愛用の天球儀があるが、今回のサミットは杉田会長の熱意により開催することができた

藤本増夫会長
(咸臨丸子孫の会)

できるだけ史実を明らかにし、咸臨丸乗組員は皆、一生懸命頑張ったということ伝えていきたい

山口伸樹市長
(笠間市)

熱意をもってやれば何でもできると、サミット開催で感じた。偉人の活躍を地域で盛り上げていくことが大事

杉田捷機会長
(小野友五郎を伝えてゆく会)

日本中に小野友五郎の名を残し、子孫の方々を招いて咸臨丸サミットを開くことが夢だった



佐川正一郎町長
(福島県矢祭町)

時代が変わる幕末、咸臨丸が果たした役割を感じた。歴史に学び未来を知る。今の日本を考える意義あるサミットだった

鈴木慎也町長
(北海道木古内町)

咸臨は心を感じ合い、親しみ、一致協力して正しい道を歩んでいくことを指す。地域で連携して明るい未来を目指したい



小野友五郎伝 4

杉田 捷機



正確な天測に驚きも

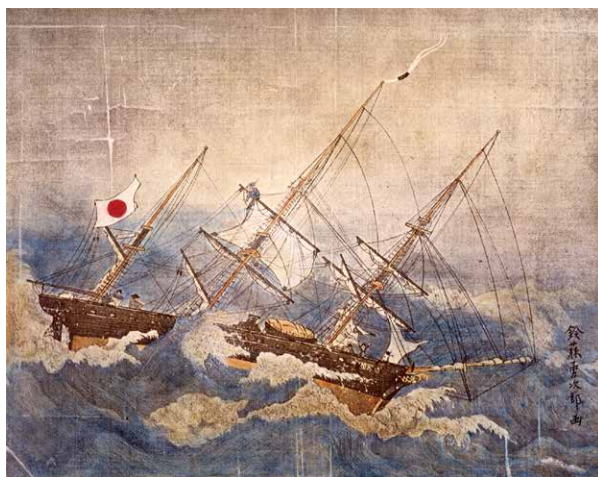
浦賀を出港した威臨丸は翌日から大荒れの真冬の太平洋に遭遇してしまい、船が波の中にすっぽり入ってしまうような状況となりました。日本人乗組員は全員船酔いになり、米国人の助けを受けなければ操船できない状況の中で、友五郎、中浜万次郎、浜口興右衛門の3人は事態に気後れすることなく天測をし操船しました。

友五郎の正確な天測にはジョン・ブルック大尉も大変驚き、改めて友五郎の才能を再認識したと後に記しています。37日間の多難な航海を終えて1860(安政7)年2月26日、無事サンフランシスコに到着しました。艦長の勝麟太郎はサンフランシスコに到

着するまで体調不良と船酔いで寝たきり状態でした。港の周辺はおびただしい数の帆船や蒸気艦が並び、日本の

小さな港しか知らない乗組員たちは、さぞ驚いたことと思われ

ます。軍艦奉行の木村摂津守喜毅は、勝艦長とブルック大尉、中浜万次郎を通訳として入国手続きのため下船させました。航海中、威臨丸は常に日の丸を掲げていました。幕府が国旗として初めて使用したもの



威臨丸難航図(横浜開港資料館所蔵)

で、それ以降、米国は日の丸を日本の国旗としてあらゆる所で掲げ、歓迎しました。笠間稲荷神社には、友五郎がこの航海で使用したといわれる天球儀が保存されています。

表敬訪問 歓迎の礼砲

米国サンフランシスコの港周囲にはおびただしい砲台があり、アルカトラズ島にも無数の砲台が入港する船に照準を合わせていま

した。日本人乗組員たちは江戸湾の無防備さを改めて思い知らされたのです。15歳から23歳まで米国で捕鯨船に乗りながら学校で学んでいた中浜万次郎にとつては、2度目のサンフランシスコで、土地勘もありました。帰国の

資金作りにゴールドラッシュで沸く金山で働いていたこともあった万次郎は、二度とここに来るとは思いもしなかったと自伝に書いています。

まげを結び、大小2本の刀を下げた侍の姿に米国人もさぞ驚いたことでしょう。長崎で外国人を見慣れていた友五郎もスカートを脱いだ女性を見たのは初めての経験。次々に役人があいさつに訪れ、皆夫人を同伴しているのは驚いたそうです。

駐米の各国領事が訪れたり、海軍の測量船や鉄工場をジョン・ブルック大尉の案内で見学したりしています。1860(安政7)年3月1日、軍艦奉行の木村摂津守は全下士官を連れ、サンフランシスコ市役所を表敬訪問し歓迎の礼砲で迎えられました。場所をピータージョブ・ホテルに移し、市内の名士数百人が迎える中、盛大な歓迎会が開催されたのです。(つづく)

大山守大場家 郷士屋敷

久信田 喜一

■大場家の概要

大山守大場家郷士屋敷（おおやまもりおおおぼけこうしやしき）は、行方市玉造甲にあり、現在火・水・木・土曜日に一般公開しています。

大場家は、桓武平氏の一族で、初代政忠は玉造城主の玉造氏に仕え、二代政信は佐竹氏に仕えました。佐竹氏の秋田移封後は玉造城



大山守大場家郷士屋敷

土間



跡に土着し、三代正治の時に、水戸藩初代藩主徳川頼房の命により大場家屋敷内に水戸徳川家の御殿が建てら

れました。五代正次の時に水戸藩二代藩主光圀の命により、御殿の普請が行われ、玉造城跡を背に負う現在の建物の原型が完成しました。以後大場家は、水戸藩の藩主やその一族が行方・潮来方面に立ち寄る際には必ず宿泊・休憩する御殿・御旅館となったのです。

その後六代惣介方正（みつまさ）が元禄十六年（一七〇三）に水戸藩の大山守に就任し、これにより大山守大場家が確立します。大山守は、郡奉行のもとで、庄屋以下の村人を管理・支配しました。大場家の場合は基本的に玉造郷十二カ村を管轄し、多い時には小川郷七カ村と玉里郷五カ村を加えた

二十四カ村を管轄しました。

その後十二代惣介政信は、水戸藩九代藩主徳川斉昭が行った天保検地の郷役人を務め、その功績により天保十五年（一八四四）に水戸藩の郷士に取り立てられました。

大場家の屋敷が大山守大場家郷士屋敷と称されるのはこのためです。



玄関

大場家はその後十三代伊三郎、十四代糸之介、十五代修一郎、十六代正道と続き、現当主大場正二は十七代にあたります。

■行方大場家歴史資料館の建設

以上のような歴史をもつ大場家ですので、所蔵する古文書は三万点以上を数えます。

さらに徳川光圀作茶杓をはじめ、徳川治保作黒楽茶碗・赤楽茶

御殿の間



碗、徳川斉昭自筆の扇面や徳川斉昭の印籠など歴代の水戸藩主から拝領した宝物類は数多く、そのほか徳川慶喜七歳の書、

徳川昭武十一歳の書、「磔邸図」（小石川水戸藩上屋敷の図）、松平頼救書、十二代將軍徳川家慶画など貴重な美術品が多数所蔵されています。

それらの所蔵品は、大場家の東蔵を改造した展示室で一般公開しておりますが、手狭になったため、大場家の敷地に近接した地所を確保して「行方大場家歴史資料館」を新築し、来年の開館をめざして準備中です。

大山守大場家郷士屋敷に皆様多数お出でくださいますようお願い申し上げます。

（大山守大場家保存協会理事）

深川・日本橋界限 ①

井坂 幸雄

咸臨丸の航海長として米国に渡るなど多くの功績を残した友五郎は文久元（1861）年、笠間藩士から幕府の旗本に登用されます。深川に屋敷を構えていた友五郎ですが、幕臣となって以降、幕府から芝金杉に屋敷地の拝領を受けていたことが史料などからうかがえます。JR浜松町駅近くの港区芝に金杉橋という名のついたビルや公園などがあり、この南側の海沿い一帯が当時の金杉でした。拝領を受けた時期は不明ですが、旗本になって以降、この一角に友五郎が屋敷を所持していたようです。

江東区が発行している『下町文化』によると、友五郎が持っている

友五郎の足跡を訪ねて

た深川や芝金杉の所有地は、友五郎が勘定奉行並を務め、鳥羽伏見の戦いにも関与したとして、維新直後に入牢、謹慎処分となったため、明治政府に召し上げられてしまいました。苦しい生活を強いられた友五郎や家族のため、元家臣



住まいがあった御船蔵前町＝江東区新大橋

らが深川の屋敷の返却を求めて訴願運動を行っています。

明治3（1870）年、友五郎は謹慎を解かれ、民部省に任用され鉄道測量事業に従事します。その一方で、明治期の業績の一つとなる製塩事業に取り組みます。事業自体は千葉県を舞台に展開されましたが、従来の居住地に近い深川区御船蔵前町に自宅を構え、明治11年には製塩の事務取扱所、販売所として同所に「新法製塩法試験場取扱所」を開設しました。

隅田川に接する御船蔵前町は現在の江東区新大橋で、橋を渡れば日本橋です。友五郎が住んでいた所は、現在はビルやマンション、商店が並ぶ住宅地となっています。

製塩で新たな一歩を踏み出した友五郎ですが、相次いで不運に見舞われます。明治13年10月に千葉県製の製塩所が暴風雨により倒壊、翌14年1月には深川の大火で自宅や取扱所、貸長屋が全焼してしまいます。友五郎は製塩所の再建に取り組み一方、明治15年には日本橋区本銀町で塩の販売を始めまし

た。御船蔵前町の土地は処分し、販売所も自宅も日本橋に移し、そこが友五郎にとって最後の住まいとなりました。

友五郎が暮らした日本橋の住ま



外堀通り面した日本橋の住居付近

いは、現在の中央区日本橋本石町で、日本銀行に近い外堀通りに面した所です。JRのガード下付近にあたるとみられ、他の住居地と同様に残念ながら当時を知る面影は残っておりません。

友五郎新聞コンクール
入賞作品36点を展示

かさま歴史交流館井筒屋
笠間市内の全児童を対象に開催
した第3回小野友五郎新聞コン
クールで、最優秀賞、優秀賞、優
良賞などに輝いた入賞作36点が、
笠間の菊まつりに合わせ10月26日
から12月1日まで、かさま歴史交
流館井筒屋で展示されました。



1カ月にわたり展示された入賞作品

今年で3回目となるコンクール
には、市内すべての小学校、義務
教育学校11校から過去最多の

512点の応募がありました。最
優秀賞、優秀賞に輝いた12人は咸
臨丸サミット会場で表彰、作品は
サミット記念誌に掲載されまし
た。

表彰者は次の通りです。

【最優秀賞】▽小野友五郎を伝
えてゆく会会長賞 寺門美歌さん
(みなみ学園義務教育学校6年)

【優秀賞】▽笠間市長賞 渡部
智貴さん(稲田小6年)▽咸臨丸
子孫の会会長賞 宮澤陽菜さん

(友部小6年)▽笠間稲荷神社宮
司賞 来栖穂香さん(北川根小5

年)▽鳴海風賞 郡司ことねさん
(友部小6年)▽笠間市教育長賞

丹家那波さん(友部二小5年)
▽ネッツトヨタ茨城会長賞 白井

優奈さん(北川根小5年)▽サザ
コーヒー会長賞 嶋田綾香さん

(友部小6年)▽ウィンド・パワ
ー社長賞 菊池小春さん(友部小6

年)▽笠間観光協会会長賞 鈴木菜
生さん(笠間小6年)▽笠間ライ

オンズクラブ会長賞 伊藤楽さん
(友部小6年)▽井筒屋賞 小沼

愛来さん(大原小3年)

会員の声



大切な地域の偉人の顕彰

橋川 栄作

鳥取県で暮らす友人が、映画「桜
田門外ノ変」を観て、鳥取藩が取
り上げられていることに感動し、
遠く茨城の私のところまで訪ねて
きました。彼によれば、鳥取の人
は幕末に鳥取藩が果たした役割や
地元の偉人のことを知らなすぎる
という。仕事を辞めて自主映画を
作り、幕末の鳥取藩を伝えたいと、
本当に公務員を辞めてしまい、10
本の短編映画を作りました。研究
会を立ち上げ、仲間を募り、会員
も増えて立派に活動を続けていま
す。

私も全国それぞれの地域で誇れ
る人を顕彰する大会、サミットを
彼らと開催したいと思っています
た。もちろん我々の代表は小野友
五郎。咸臨丸サミットが盛大に開
催され、大変うれしく思い、運営
に携わった皆さんに感謝します。

編集後記

盛況だった咸臨丸サミット。パネ
ラーの皆さんからも後日、感謝や
おほめの言葉をいただきました。「会
場の雰囲気が高く、楽しくうきう
きした気持ちで話すことができま
した」「多くの力で成し遂げられた
サミットはまさに咸臨(互いに親し
み厚く情を持って協力し合う)でし
た」「熱心に聞いていただきとても
うれしかったです」などなど。そし
て、皆さんまた笠間を訪れ、歴史
や観光、お酒を楽しみたいとのこと
でした。(井)

会員募集中

本会の趣旨にご賛同くださいま
す個人、法人及び団体の皆様のご
入会をお待ちしています。

下記アドレスまたは
QRコードより、ホーム
ページ「入会のご案内」
をご覧ください。



<https://tomogorou.com>